

Raspberry*Flower

みゆちゃんと恋しよう2



成人向

18禁

FOR ADULT ONLY



前回のあらすじ



特に昔でもないあるところに、

みゆちゃんという大層小さな女の子
がいました。

みゆちゃんは家庭教師の先生の事が大好きで、
なんとか先生のことを振り向かせるために
テストで満点を取ったら

何でもお願いを聞いてくれる
という約束を先生と交わし、そして見事に
成し遂げました。

そのお願い事というのは**えっちなこと**をする
というもので、イニシアチブを握ったみゆちゃんは
ここぞとばかりに**先生の趣味（憶測）**
と思われるブルマ姿で超積極的に誘惑を仕掛けます。

しかしここでみゆちゃんに早くも誤算が。

先生は思いの外、良識人だったのです。

そんじょそらの口○コンなら「マジで!？」
と食いつきそうな状況であるにも拘わらず、
先生は自身の立場をちゃんと自覚し、
大人としてみゆちゃんにまだそういうことは早い的な
ことを諭します。

比較的それとなく。

そんな先生の態度にさしものみゆちゃんも**激おこ**。
頭に血の昇った子供は何をするかわからないもの。

そこでみゆちゃんが取った行動とは……



なんと、先生の前で
ひとりえっちを
始めるというなんと
斜め上な行動だったの
でした。

それでも尚、先生は良識人であろうとします。
本当はみゆちゃんのことを好きで好きでしょうがない

真性なのに。

しかしだからこそ折れるわけにはいかない。

そう、彼は家庭教師。
教育こそが仕事なのです。



教育と称して割と
やりたい放題の
先生。

みゆちゃんのえっちな
姿、主に匂いの前に、
先生の紙クズのような
理性はあっさり
瓦解してしまっ
たのでした。

当然、泣かれるわけで。

みゆちゃんの涙にケモノと化して
いた先生も正気に戻ります。

いつもの優しい先生として、
そして大好きなみゆちゃんを
泣かせてしまったことへの
精一杯の懺悔として、
そっとみゆちゃんを抱きしめ、
頭を撫でたりして安心させようと

必死です。





しかしそんなことでみゆちゃんの先生を想う気持ちは揺らぎませんでした。
先生もまた、みゆちゃんへの想いを強く抱き、今度は優しく、彼女の願いを叶えてあげようと思います。

しかし彼はどんな時でも
自らの信念を貫く紳士
でした。

正直みゆちゃんはこのとき
若干引いていたのですが、
そこをぐっと堪えて先生のしたい
ようにさせてあげるみゆちゃんは
とても大人だと思いました。
(小学生並みの感想)



かくして無事、なんとか思惑通りに先生と結ばれることの出来たみゆちゃん。
これまでの「教師と教え子」の関係ではなく、「恋人同士」となった二人の
行く末や如何に。

今回はそんな二人のその後のお話をほんの少しだけ語りたいと思います。

これは二人が二回目のえっちに及ぶまでの経緯と、その顛末のお話。





15分後











せんせーがいつも
ボクのぼんつ見てる
こともっ

ボクのが大好きで
大好きでしようがない
変態のロリコンさんだって

ぜーんぶ
知ってるよ…?

ボクが見てないときに
ボクの枕とか椅子とか
くんくんしてることもっ



俺の中に残っていた
罪悪感、いつしか
影を潜めていた

初めてえっちしたときより
みゆちゃんの顔は、声は
気持ちよさそうで――
何より安心しかったその様に

……みゆちゃんっ……
みゆちゃんっ……

は……っ……
た……っ……
き……

はじめてえっち
したときより奥に
きてる……







あとかき。

前回はページを埋め尽くす勢いのあとかきを書いて、割と本気で後悔したので今回は普通にやります。あのあとかきも伝えたいことは「好きになった女の子がちっちゃくても愛さえあれば関係ないよね!」の一文で纏まってしまう程度のものでしたわけ。とはいえ今回もテーマ的には同じなので、正直特に語ることも無いんですけど。困ったな……。

今回はC83にて発行した「みゆちゃんと恋しよう」の続編となりました。前作をご覧になられていない方でも楽しめるように今回は少しだけあらすじに力を入れてみましたが、文章を差し込んでいて「あれ、こんな話だったっけ……」と自分で戸惑うことしばしば。先生はもっと自分の中では紳士（変態ではない方）なイメージだったはずなんですけど。少なくとも真性ではなかった気がしますが、改めて前作を読み返したところ、どれだけ好意的に解釈してもガチモンのロリコンにしか見えなかったの、きっと、これが正しい認識なのでしょう。

先生と教え子のみゆちゃんのその後を描いたお話でしたが、この本では冒頭にて先生がまたやや消極的な態度に戻ってしまっています。これは自分の中の想像（実践するわけにはいかないの）ですが、もしみゆちゃんみたいな子に手を出してしまったら、やっぱりそれなりに罪悪感を覚えると思うんです、普通は。

だからいくら恋人同士になったとはいえ、がつついてえっちなことをしようというのはなんだか気が引けてしまい、もし自分からえっちなことをしようとしたら嫌われてしまうのではないかと、だったらこちらからは求めず今まで通り表面上は「良い先生」であり続けていた方がリスクが少ないのではないかと。そういうヘタレな恋愛処世術で取り繕ってしまうのではないかと、と自分に置き換えてみたときに感じたわけです。

要はみゆちゃんの方から迫ってくるのを実は待ってるだけだったりするんですけど。「自分から手を出したのではない」という免罪符が欲しいんですね。

みゆちゃんも実はなんとなく気付いていて、序盤の二人のやりとりはそういう視点で見るとそこはかとなく茶番っぽく見えるように敢えて描いてみたつもりです。うまくいったかどうかはさておき。

またこの二人のお話は描きたいです。もし次に出す機会があれば、今度はみゆちゃんの友達から見た二人の関係について描ければなんと妄想を膨らませています。

そんな機会が訪れることを信じて。また来週。

2013年7月某日 RYO



2013年 8月11日 発行

印刷会社 PICO様

発行：没後

著者：RYO

連絡先

<http://www.synapse.ne.jp/botugo/>

mayaul@vesta.dti.ne.jp

本書の一部あるいは全部について
発行者の許諾を得ずに無断で複製・複写・インターネットへの
アップロードを固く禁じます

乱丁・落丁本はお手数ですが、上記の連絡先までご連絡下さい



みゆちゃんと恋しよう2

Raspberry*Flower

